

特定非営利活動法人シクロツーリズムしまなみ

2024年度 事業報告書

2024 年度総括

自転車の聖地としての認知度が高まる「しまなみ海道」。コロナ禍を経て、観光旅行が自由にできるようになり、インバウンド旅行者を中心に地域への入込の回復を感じる年となった。サイクリングロードの魅力化や安全安心な走行環境整備、公共交通との連動や休憩所開放などの受入環境整備など、これまで官民一体となって進めてきた取組みは、担い手が共有の理念を持って一体的に進める方策が定着してきたことを感じている。

ビギナーからエキスパートまで重層化する自転車旅行者、リピーターの拡充を踏まえ、誰もが快適に、何度来ても楽しめるフィールドづくりに知恵を絞る段階だ。大きな命題に、船や列車などの域内交通を活用し、体力・走力、滞在日程に応じて、地域内を効率的にサイクリングできる支援がある。今期は民間事業者と連携し、サイクルシップの新たな着岸港の可視化、誘客に向けたツアー造成などを展開した。ルート調査の中では、個人旅行者を意識した情報受発信の大切さを確認。充実策の中で、住民参画型で整備し、担い手が拡充する「サイクルオアシス」の受入基盤強化に取り組んだ。

2025年1月16日、今治市は合併20周年を迎えた。コンセプトは「むすぶ」。12市町村という広域にまたがる各地域には、風土に根付き、大切に育まれてきた文化がある。その土地の暮らしに触れながら地域を巡ることのできるサイクリングの可能性は、今治市合併20周年記念事業を契機に共有が進んだところだ。新たな20年に向けたビジョンを描く中で、来訪者との交流を促しながら、地域資源を保全し、継承していく力も見出したところである。

世界中から多くのサイクリストが集まるまち。この大きなうねりの中で重ねてきた小さな活動。今治市合併20周年記念功労賞を得ることができました。地域をゆっくりと巡り、出会いを楽しみ、故郷のファンを増やしていく。創世期に描いた「スローサイクリング」というコンセプトに立ち返り、活動を深化させていきたい所存です。ここに2024年度事業についてご報告いたします。会員の皆様におかれましては、ご意見・ご批評いただきますとともに、引き続き、ご指導・ご鞭撻の程、よろしく願いいたします。

1. 自転車をつなぐ山・里・まち・海プロジェクト～環境教育によるしまなみのブランド力向上事業～ (2022年度地球環境基金助成金/3か年事業)

しまなみ自転車キャンプを通して、拠点①ゲストハウス“なみトみなと”におけるサイクルツーリズムのオペレーション体制構築、拠点②“シクロ農園”における環境学習の機能整備を行なった。山から海へつながる地形、それを基盤とした生物多様性や土地利用のモニタリングをすすめ、旅人と住民双方へのガイダンス機能を充実させた。

(1) 二次的自然の保全を基盤にした誘客プログラムの構築

《アウトカム》自然と人のつながりを求める旅行者の増加と地域住民の担い手育成

サイクリングとキャンプを組み合わせ、自然環境に寄り添いながらの地域回遊と滞在を促す事業。春、夏、秋のシーズンごとのモニタリングを行い、モニターとの対話、アンケートによる意見収集から、地域のファンづくりにつながるためのアイデアを抽出した。

《アウトプット》

○キャンプ道具配備

キャンプ道具貸出機材、消耗資材の購入により、充実を図った。

○「しまなみ自転車キャンプ」パンフレット制作

自転車キャンプの機材レンタル、ガイド付きツアーの紹介パンフレットを制作した

○WEBでの広報（ホームページ構築《英語化》

自転車でキャンプするユーザーへの情報発信の充実化を図った。

(2) 山・里・まち・海つながり拠点の創出

《アウトカム》学び場の構築により、地域住民と旅行者の交流創出

調査及び研究を旅人・住民双方の参画型で開始し、文化的サービス提供拠点化の活動を開始した。「シクロ農園」を学び場として再構築し、地域住民と旅行者の交流が生まれた。新たな導入作物、周辺の誘導路や園地の整備・維持への意欲向上にもつながった。

《アウトプット》

○調査とその報告会の実施

年間を通してエリア内の調査を実施した。

○世代間交流拠点の整備完了

地元住民の定期的な来訪が見られるようになった。
園児、児童の行事利用の定例化が進んだ。

○ガイダンスの充実。

展示パネルを制作し、3回の展示会を開催



(3) 地域に確立された自転車新文化推進体制へのコミット

《アウトカム》地域資源保全につながる自転車旅行推進に向けた地域連携の体制強化

なみトみなと、シクロ農園を拠点に、多様なステークホルダーが関わりあいながら、地域の二次的自然等の活用を通して、その保全を具現化する。全体構想（「自転車旅行推進宣言(仮称)」）を示すことでガイドの育成、ガイダンスツールの作成。自転車の聖地としてのブランド力向上につながる。

《アウトプット》

○セルフガイダンスツールの製作

多様な関係者の学びの「水を巡るサイクリング（図鑑編）」、「島走ネイチャー」を製作した。

2. 「デジタルツールを活用した安全な自転車旅行地形成事業」

～自転車の休憩所「サイクルオアシス」を活用したデータ基盤構築～（高速道路活用支援事業）

しまなみ自転車旅行の基盤の一つ「サイクルオアシス」のDX化に取り組んだ。旅行前（旅マエ）、旅行中（旅ナカ）、旅行後（旅アト）のそれぞれのタイミングで、旅行者が求める情報を受発信できるしくみを整えた。また、「サイクルオアシス専用サイト」のSEO対策、位置情報のマッピングを行い、「サイクルオアシス」の休憩機能、自転車走行環境の可視化を進めた。国内外に向けたしまなみサイクルツーリズムへの誘客機能を整えることができた。

(1) 現地調査

「サイクルオアシス」の担い手の現況調査を行った。併せて、周辺ルートの資源調査を行い、旅行中のサイクリング行程の可視化を行う。さらに「サイクルオアシス総合拠点」（ゲストハウス シクロの家）において、しまなみサイクリング経験者のヒアリングを行い、旅の魅力の可視化につないだ。

(2) デジタルツールの構築と評価

現地調査を踏まえ、既存サイトの充実と新たなしくみ構築を進めた。①「サイクルオアシス専用サイト」のSEO対策による「旅マエ」への対応、②サイクルオアシス専用サイトの位置情報が「旅ナカ」に検索できるしくみづくり（マイマップ化）、③地元の担い手の思い、旅人の思い出を交換できる「デジタル旅ノート」の新設による「旅アト」でのつながりづくりを推進した。



3. しまなみ海道を満喫できる遊覧船とサイクリングの組み合わせを中心とした新価値創造コンテンツ造成事業

多島美を満喫できる遊覧船とサイクリングを組み合わせ、「とびしま海道」「ゆめしま海道」など、瀬戸内を面で捉えたルート設計による新価値創造コンテンツ造成に取り組んだ。自転車を積載するサイクルシップの運航について、新たな着岸港の発掘と定期航路化を見据えた観光資源化について支援した。また個人旅行で訪れるサイクリストの受入環境整備に向け、航路とサイクリングルートの多様性、旅行の安全性等の情報環境整備の補助を行った。

① 船と自転車を合わせた旅程の具現化に向けた受入基盤の点検

国内外のサイクリストのニーズに応え、瀬戸内をダイナミックにサイクリングできる船のモビリティ、船と自転車を組み合わせによるバリエーションある旅程の具体化に向けた基盤の点検を行った。

② サイクルシップの航路、サイクルシップで巡るサイクリングモデルコースの提案

新たな着岸港を利用したサイクルシップ運航ルート、サイクルシップを合わせたサイクリング行程の可視化に向けた調査活動を行った。モニターツアーを実施し、モデルコースの提案につないだ。

③ サイクルシップを活用した行程構築を支援するツール開発

サイクルシップ運航とサイクリングを組み合わせたツーリズムを支援するツールの制作を進めた。

《ガイド付きツアーの提案例》

団体旅行にぴったり 船×自転車のおすすめコース

船の運航ルートはアレンジ可能!! しまなみ海道を知り尽くす地元ガイドが同行!!

募集型ツアー、団体旅行をご検討の皆様へチャーター船をご用意します。

しまなみ海道 有名な観光エリアをイトコドリ

立地上の理由で、1日で周りが切ることが難しいホットスポット「来島海峡大橋、うさぎ島、瀬戸田町、多々羅大橋」を巡るルート。「サイクルシップしまなみ」は定期航路のない北瀬戸を活用し、隠れた旅情の中で堪能できます。

ゆめしま海道 4島をつなぐ橋&来島海峡大橋を制覇

人気高い生口島の海沿いロードとゆめしま海道の島々、さらに来島海峡大橋をサイクリングするルート。「サイクルシップしまなみ」は定期航路がない北瀬戸の長江港を活用、隠れている場所を航路でつなぐ、1日で楽しめます。

とびしま海道 芸予瀬戸島から航路で大崎上島へも上陸

勝手洗や水江の歴史ロマン溢れる町並みと、情報ある7つの島をつなぐ橋、瀬しまなみともきわれる「安芸瀬とびしま海道」へ、王道「しまなみ海道」を経由して渡る。リピーターが愛するルート「サイクルシップしまなみ」が実現します。

高瀬時間(往): 4~5時間
最小催行人数: 6名(最大定員: 42名)
船チャーター代(1日1往): 300,000円

高瀬時間(往): 3~4時間
最小催行人数: 8名(最大定員: 42名)
船チャーター代(1日1往): 250,000円

高瀬時間(往): 5~6時間
最小催行人数: 8名(最大定員: 42名)
船チャーター代(1日1往): 250,000円

《今後の運用に向けた気づき》

○船と自転車を組み合わせたコンテンツ造成を支持する声は高い。自転車の安全運搬(ガイドラインの作成)、サイクリング計画を支援する体制(人材配置)、瀬戸内の眺望などの観光ガイド(ガイドの配置)が必要。

○サイクルシップの運航航路については、定期航路が不足する「しまなみ海道」の多々羅大橋から今治本土側、「とびしま海道」や「ゆめしま海道」へのニーズが高い。尾道側からの入込客が多いこと、「しまなみ海道」においては今治市側(多々羅大橋より今治本土側)に定期航路が不足している現状を反映している。

○サイクルシップを利用するメインターゲットとして、サイクリングの初心者やインバウンド旅行者などレジャーとしてサイクリングを楽しむ層とし、コンテンツを磨き上げることに可能性がある。

○遊覧機能を備えた観光コンテンツとして「サイクルシップ」の実証実験となった。単なる「交通」ではなく、自転車の安全運搬、船内での接遇をサービス化し、価格設定をしていくことが必要である。

4. サイクリスト向け情報発信コンテンツ運営管理委託業務

フェイスブックとインスタグラム「しまなみサイクリングパラダイス」、ホームページ「しまなみ自転車旅の宿」の運営を通じて、瀬戸内しまなみ海道をサイクリストの聖地として広く国内外にアピールした。

① フェイスブック・インスタグラム「しまなみサイクリングパラダイス」の運営

「しまなみ海道」サイクリングの基本的情報及び取材に基づくしまなみエリアの新規情報を配信した。また走行マナーの向上や安心・安全な自転車運転につながる啓発情報を織り交ぜ、安全・快適に走行できるエリアアピールを行った。

(1) カバー写真の更新

毎月1回、季節感のあるしまなみ海道エリアの写真を更新した。

「しまなみ海道」や「ゆめしま海道」の橋梁美の印象が残るよう、時間ごとに表情を変える「橋」の風景を厳選した。

4月/いいね:29件 ▶



(2) 取材及び記事の投稿

効果的な配信となるよう、3日に1回程度の頻度で投稿した。リアリティのある内容、意図がすばやく伝わるよう画像等の使用に留意した。インスタグラムにおいては、視覚的な訴求効果の高い画像について、毎月3~5回投稿した。月に1回、マナー啓発のための記事を作成し、サイクリストのマナー向上につながる情報発信を行った。

【フェイスブック】最もインプレッションが高かった記事：(2024年11月8日投稿)

リーチ数：8,685 閲覧者数：12,930 純インタラクション数：196

しまなみサイクリングパラダイスさんの投稿

しまなみサイクリングパラダイス
作成者: Masayuki Murakami
2024年11月8日

【尾道〜向島間を航行する「福本渡船」】
尾道と向島との間、約250mを結ぶ渡船には、現在3つの航路があります。そのひとつ「福本渡船」が、2025年3月をもって135年余りの歴史に幕を閉じることになりました。
長年、住民の通勤や通学、そして生活の移動手段として親しまれてきた航路の廃止に、地元の方々は驚きを隠せないようです。
しまなみ海道をサイクリングする際は、狭い道幅、かつ遠回りになる尾道大橋を避け、渡船を利用するのが一般的で、国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ」でも多くの参加者を運んでくれました。渡船から眺める尾道水道の風景や、町並みはとても風情があり、サイクリストの心に深く刻まれていることでしょう。
尾道市と向島を結ぶ渡船には、福本渡船のほか、「おのみち渡し船株式会社」が運航するものがあります。こちらは健在なので、これまで通りどうぞご利用ください。

#しまなみ海道 #サイクリング #自転車 #尾道 #みきゃん #福本渡船 #尾道港 #shimanami #cycling #onomichi #渡船



【インスタグラム】最もインプレッションが高かった記事：(2024年11月19日投稿)

リーチ数：353 閲覧数：667

An Instagram post with a large image of a cyclist on a road overlooking a bay with mountains in the background. The post text reads: 'しまなみ海道の東側、因島の隣りに浮かぶ、25の離島で構成される愛媛県上島町。そのうち、弓削島・佐島・生名島・岩城島を架橋で結ぶサイクリングルートは“ゆめしま海道”と呼ばれ、自転車愛好家たちも多く訪れる人気ルートとなっています。架橋を渡り小一時間ほどの短いポタリングを楽しんだり、約50kmほどの周遊ルートを組み込んで本格的なサイクリングを楽しむこともできるなど、ビギナーから健脚のサイクリストまで、個々の体力に応じてバラエティー豊かなルート選びが可能です。また、弓削港、生名港、岩城港には上島町レンタサイクルターミナルが設置され、軽快車やクロスバイク、タンデム自転車等を手軽に借りることもできます。' The post shows 46 likes and is dated 2024年11月19日.

今期、フォロワー数はフェイスブック 3,435 名、前年比で 55 名増した。インスタグラムは 510 名となり、前年比で 114 名増加となった (2025年2月20日現在)。性別の割合に変化はない。中部、関東圏のフォロワーが少ないことから、しまなみ海道エリアを地域生活圏、日帰り旅行圏と捉えるユーザーによる閲覧となっていることが推測される。インスタグラムは、若年層、女性のフォロワー数の割合が多い。

今後の運営にあたっては、ターゲットを意識した情報発信により、フォロワー数のアップを効果的に進めたい。地域に密着し、地域活動を織り交ぜた記事により、地域の魅力を伝え、新たなファンの獲得を目指したい。

②ホームページ「しまなみ自転車旅の宿」の運営

ホームページ「しまなみ自転車旅の宿」を管理した。自転車の安全な保管やメンテナンススペースの有無、外国語対応の可否など、サイクリストフレンドリーな宿泊施設情報を提供し、瀬戸内しまなみ海道へのサイクリストの誘客を図った。

5. 今治市サイクルシティ推進事業の業務

「サイクルシティ IMABARI」の実現を目指す今治市では、「今治市サイクルシティ推進協議会」を設置し、様々な事業を推進している。事業推進にあたり、交通ルール遵守、マナー向上などによる誰もが安全に安心して自転車を利用できる環境を整えたり、サイクルツーリズム推進につながるツアーなどを実施したりする取組みについて、協働推進を担った。

(1) ウェルネスサイクリングツアー実施事業

多くの人が自転車に親しみ、サイクリングを楽しむため、愛媛県が「愛媛サイクリングの日」を設定している。(毎年11月第2週日曜日)。この日に合わせ、「サイクリング・美容・健康」をキーワードにウェルネスサイクリングを実施。地域の魅力を体感いただき、自転車と共生するまち実現を目指した。

日 時：2024年11月10日(日)8:30～15:15

参 加：女性を中心に今治市民23名

今治東中等教育学校の学生(スタッフ参加)

コース：サンライズ糸山～大島/ワキイ海岸～大島/バラ公園～下田水港＝波止浜港～サンライズ糸山

(2) 在住外国人向け自転車講習

自転車をメインの交通手段とする在住外国人(技能実習生や留学生)に対し、日本の交通ルールや自転車の正しい乗り方など安全対策についての意識を向上してもらうことを目的に研修会を開催した。しまなみ海道サイクリングの魅力も伝え、参加者によるSNS発信などによる今治市の魅力PRにつなぐことを目指した。

日 時：2024年11月22日(金)9:00～11:00

参 加：今治明德短期大学 留学生 56名

会 場：今治明德短期大学

6. ライフステージに応じた自転車利用の拡大と安全安心ライドの普及

自転車新文化の定着を目指すしまなみから、世代を越えて自転車に親しむ機会の創出、走行環境の整備や交通マナーの啓発につながる取組み等を進めた。

① 「みきゃんサイクルスクール 自転車ヒロバ」開催事業

未就学児を対象に「ランニングバイク」使用による「自転車ヒロバ」活動を実施した。活動により、自転車に乗るための基本となる能力、他者とぶつからないようにする中で育む思いやりの気持ち等を実践的に養うと共に、自転車を安全に利用するためのルールやマナーを啓発することができた。また地元のコミュニティ組織、企業等と連携し、保護者等が休憩できる空間づくりを行うことで三世代が交流しながら自転車の魅力を体感できる場づくりとなった。

《1回目》

日時：令和6年7月26日(金)15:30～19:30

会場：なみかた海の交流センター

連携：玉生八幡神社の輪ごし(地元コミュニティ組織)

参加：未就学児約70名、来場者約140名



《2回目》

日時：令和6年10月13日(日)10:30～15:30

会場：今治商店街

連携：今治市・こどもが真ん中フェスタ

参加：未就学児約210名、来場者約450名



② 第12回しまなみランニングバイク選手権

「しまなみランニングバイク選手権」を開催した。三世代が交流しながら自転車に親しむ大会となった。自転車の往来が増えるまちにおいて規則やマナーの啓発、自動車や歩行者との道路シェアの意識醸成等につなぐこと事業として、地域一丸となった取組ができた。

日 時：2024年11月3日(日) 9:30～15:30

会 場：波方港・なみかた海の交流センター

参加者数：選手134名・来場者約600名



7. なみかた海の交流センター管理運営事業（今治市委託事業/3か年事業）

地域住民と来街者の交流の拠点として、しまなみ海道を訪れる自転車愛好者等の立ち寄り、海事資料の展示による地場産業の振興等に取り組んだ。市民の創作活動、芸術作品等の発表の場「市民ギャラリー」の充実に努め、文化活動を通じた施設の認知度向上に努めた。地元で開催するイベント時のトイレ利用等、旅行者、地域住民双方が気軽に立ち寄り、懇親・交流できる拠点づくりを進めることができた。

①ギャラリー機能：海事資料館との相乗的な情報発信機能	来場者数(人)
市民ギャラリー・自転車旅行博物館（自転車関連の展示）の運営。	3,510
② 飲食業、製造加工業：地産食材活用による地域らしい食提供機能	
地産の食材を提供するカフェ。地産の食材の加工・製造。	275
③簡易宿所業：多様な形態に応じた宿泊提供機能	
個人から団体までニーズに対応できる「なみトみなと」の運営。	1,935
④ 地域限定旅行業：自転車等を活用した地域回遊まちづくり機能	
マイクロツーリズムを含むサイクリングツアーの催行。 自転車でキャンプするレンタル用品の貸し出し。	45
⑤その他：地域の魅力再発見につながるイベント開催 他	
イベントの主催、地元イベント開催時の施設開放。	580

8. 宿泊業「しまなみゲストハウス シクロの家」「なみトみなと」

JR 今治駅前、今治市北部・波方港前で開業している2カ所のゲストハウスを運営した。

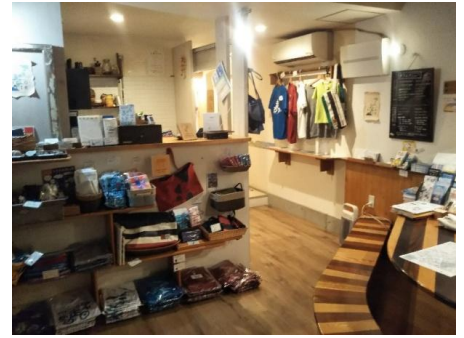
《しまなみゲストハウス シクロの家》

開業11年目を迎えた。しまなみ海道エリアを訪れる訪日外国人旅行者は年間3600万人を超える状況の中、当施設にも年間を通して、多くの外国人旅行者の利用があった。地方都市の文化、風情に興味がある方が多く、今治市街の散策や地域ならではの食事などをより深く楽しむ傾向が感じられた。旅行者同士の交流を求めて、当施設を予約する旅行者が多く、談話室では、旅行者同士が情報交換するなど、コミュニケーションを楽しむ姿が見られた。

《なみトみなと》

2018年に4室・16床で開業した施設について、中・長期の団体宿泊客をお迎えできるよう、2024年1月に5室・31床に定員数を増やした。施設名も「CYCLO CAFÉ & BOOK HOSTEL なみトみなと」から、「なみトみなと」と分かりやすい呼称とした。夏季休業期間などに、学生のスポーツ合宿の御一行、雅俗旅行者などをお迎えすることができた。また、地場産業の海事造船業に関わる船主からの要望を受け、新造船の乗組員の方の宿泊について、年間を通して受け入れる体制を整えることができた。

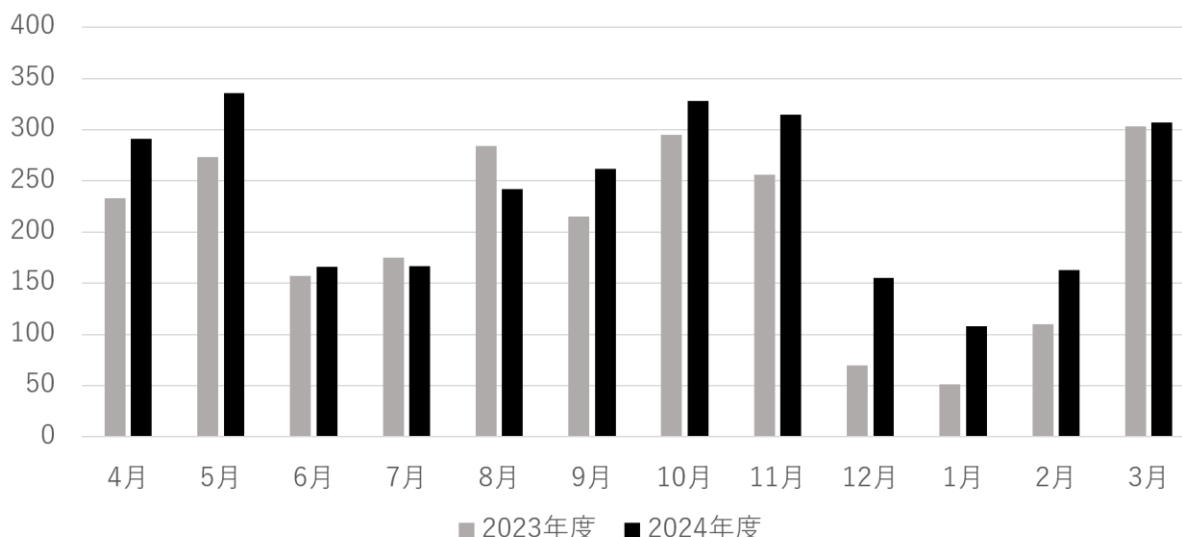
両施設を運営するにあたり、地元のアルバイト、新入正社員を迎え、旅行者への情報提供、積極的なコミュニケーションを楽しんでいただけている。当会では、サイクリングや今治市内観光に関する情報収集、発信に向けたツールの充実に努めてきた。旅行者の個別ニーズに合わせた情報提供ができるよう、スタッフ全体のレベルアップを図り、適切な対応で宿泊客の満足度向上に努めたい。



① 宿泊利用実績・動向

「シクロの家(14床)」年間の宿泊者数は2,840人(泊)(前年度2,422人)となった(2024年度比418人(泊)増・コロナ禍の影響が残る2022年度比1,230人(泊)増)。ここ数年、今治市中心部でのビジネスホテル開業があり、宿泊の選択肢が増える中、当施設の宿泊者数は一定の回復が見られた。

グラフ:「シクロの家」月ごとの宿泊者数推移(前年度と本年度)



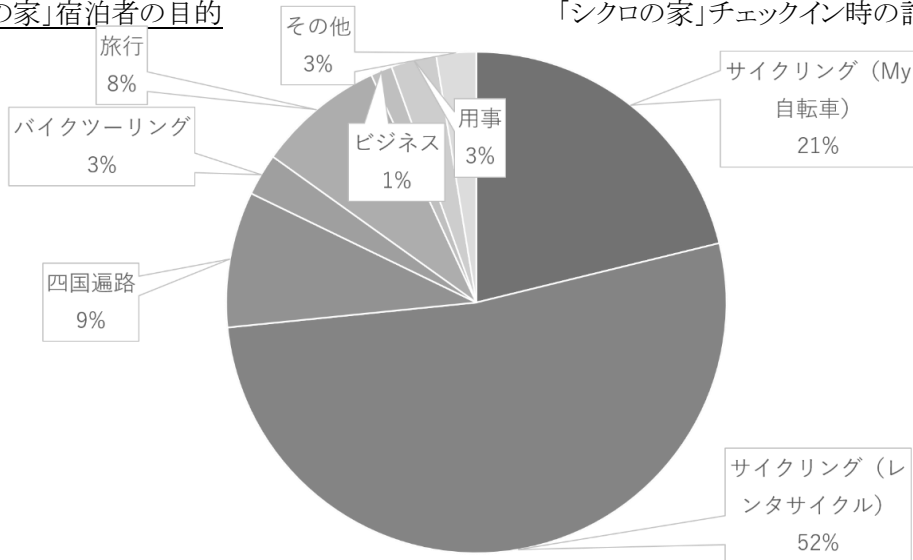
これまで、当施設を利用するサイクリング目的や四国遍路の旅行者は、長期休業がある8月、3月の来訪が一般的だったが、その傾向には変化を感じた。特にサイクリング旅行者は、春や秋のサイクリングに適している季節にピークが移っている。レンタサイクル貸出状況なども勘案すると、7月8月の猛暑の影響であることが分析できる。

サイクルオアシス総合拠点として、宿泊者だけではなく、カフェ利用やグッズ購入を含む立寄り利用も207名となった。自転車用の空気入れの貸出、シャワー利用や自転車預りなどのサイクリストのニーズにもお応えできた。

② 宿泊者の属性と傾向

グラフ:「シクロの家」宿泊者の目的

「シクロの家」チェックイン時の記述式アンケートより。



直近2年の傾向として、レンタサイクルの旅行者の割合の増加が顕著である(2022度:My自転車の旅行者:レンタサイクルの旅行者=1:1)。しまなみ海道のサイクリング誘客体制として、レンタサイクルの車種(E-bikeを含む)の充実したことやインバウンド旅行者の増加が影響していることが推察される。ロードバイクのブームがひと段落し、当施設が情報提供などでサポートしながらお迎えしているサイクリング初心者、一般旅行者のサイクリング体験者が、安心してサイクリングを楽しむエリアとして、しまなみ海道のイメージが定着しつつある。今期の春と秋はインバウンド旅行者の四国遍路の歩き遍路に多く宿泊いただいた。

表: 宿泊者の男女比率 (2023年度と2024年度)

	男性	女性
2023年	62%	38%
2024年	60%	40%

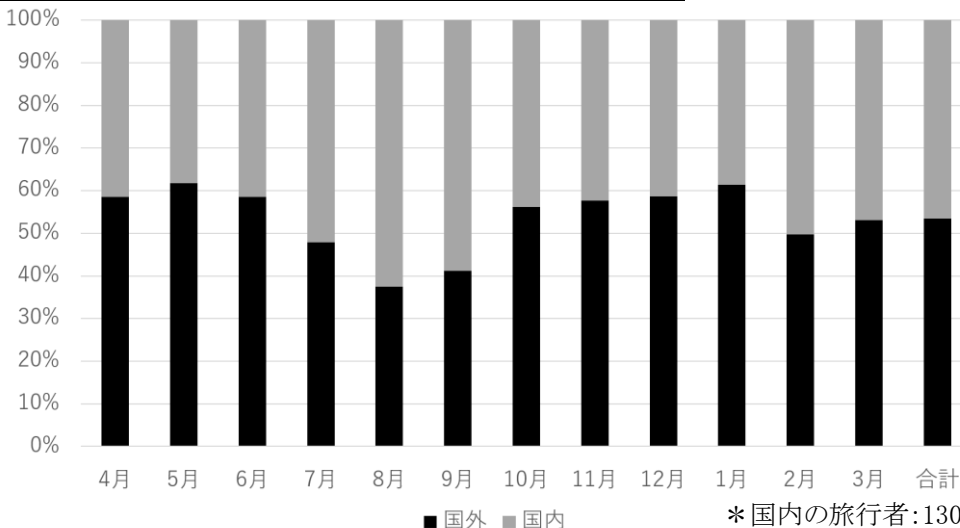
女性ドミトリーの数が限定的なこともあり、男女比はこれまでとほぼ変わらず、6:4の割合だった。

表: 連泊やリピーターの割合 (2024年度)

宿泊者数	2798人
連泊数	305人 (11%)
リピーター	238人 (9%)
しまなみリピーター	171人 (8%)

1割程度の連泊があった。しまなみ海道サイクリングのスタートやゴールの拠点施設らしく、サイクリングの前泊や後泊として利用いただけた。リピーター率やしまなみ海道のリピーター率は、例年通りの割合であった。

グラフ: 月ごとの国外、国内旅行者の割合 (2024年度)



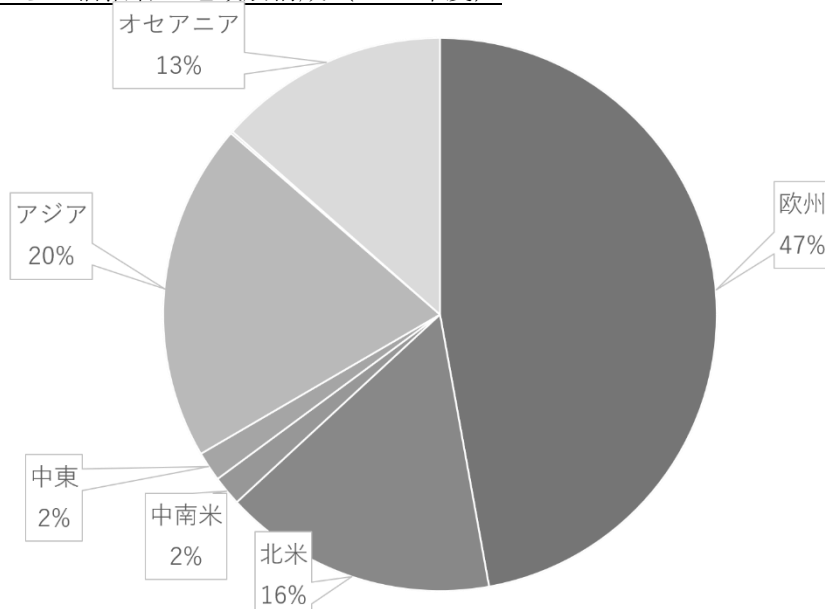
2022年11月以降に回復したインバウンド旅行者は、2023年度に半数、2024年度は国内旅行者の数を超えた。

表：国外と国内旅行者の月ごとの宿泊者数（2024年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
国外	168	203	99	81	90	108	182	178	88	65	80	155	1497
国内	119	126	70	88	150	154	142	131	62	41	81	137	1301

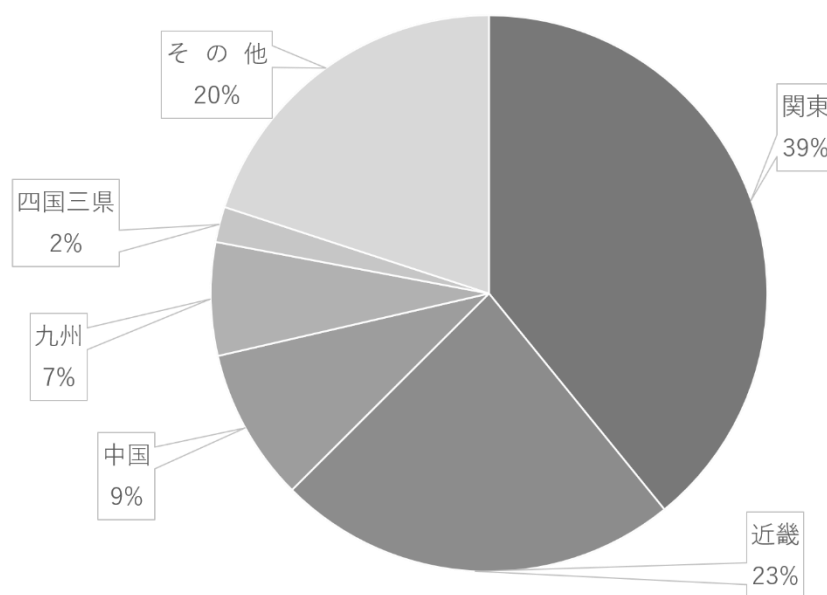
国内旅行者は長期休暇を取りやすい時季や温暖な期間に多く、インバウンドは欧州の旅行者のバケーションの時季に影響されることが考えられる。今期は10月以降に海外からの旅行者の高い割合が続き、国内の旅行者の閑散期にご利用いただけた。

グラフ：国外からの宿泊者の地域別構成（2024年度）



海外旅行者は欧米豪が中心となった。フランス、ドイツ、イギリスの順に宿泊が多かった。サイクリングをレジャーとして楽しむ文化が根付く国からの旅行者が、しまなみ海道サイクリング旅行を選択していることが考えられる。例年と比べるとアジア圏からの旅行者、特に台湾からの旅行者が微増傾向にあった。アジア内では台湾、香港について韓国、シンガポールからの来訪があった。

グラフ：県外からの国内宿泊者の地域別構成（2024年度）

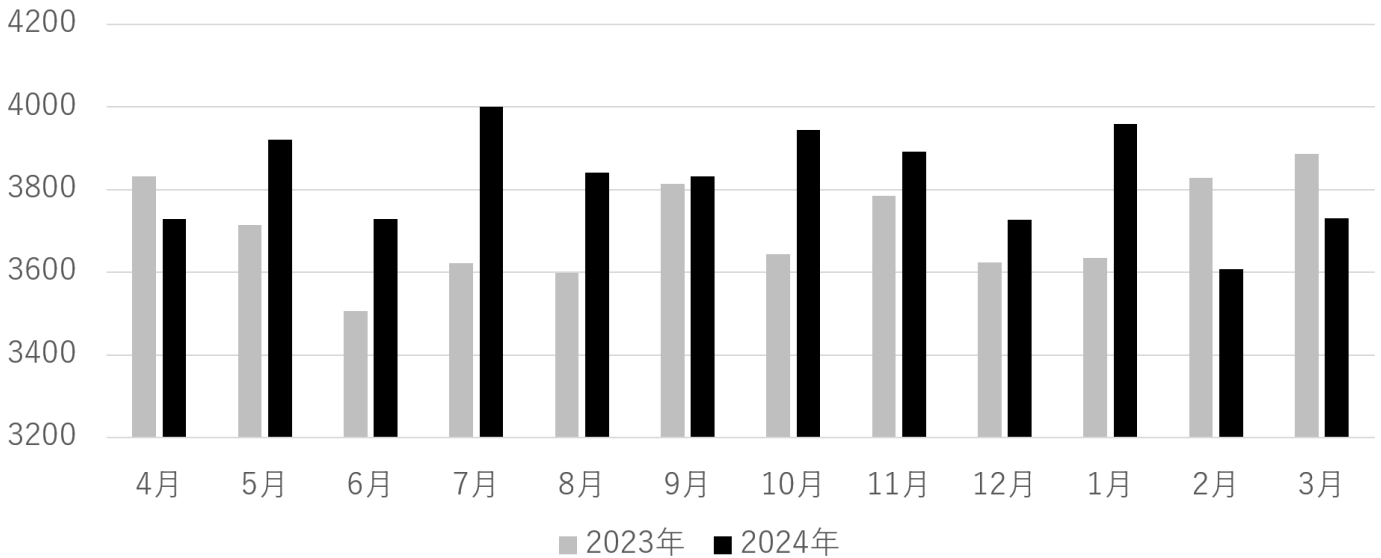


国内の旅行者の地域別の割合は、例年通りほとんど変わらない。人口の多い関東や関西の都市部からの旅行者が多かった。

9. 物品販売業

アパレル、グッズ等の土産は地域内の販売施設（道の駅等）を中心に、書籍等はインターネットを中心に販売を継続した。「シクロの家」のフロントにおいては、カフェメニューを提供しながら、グッズの販売を継続した。

グラフ：月ごとの売上単価（2023年度と2024年度）



書籍、マップの「島走シリーズ」は安定して購入いただけた。海外旅行者には「しまなみ島走マップ英語版」が注目された。オリジナルTシャツや今治タオル商品の人気も根強い。絵葉書では活版印刷ハガキのシリーズが人気だった。

10. 地域限定旅行業

①募集型旅行

旅行者のニーズに合わせて、着地型旅行商品を造成し、提供した。地域資源の活用、住民との交流を進めた。

■第10回シクロ女子旅(秋) *コミュニティライドとして実施

2023年11月4日(土)・5日(日)/1泊2日

■第13回タンデム自転車祭り

2024年3月23日(土)・24日(日)/1泊2日

②受注型旅行・ガイド派遣

個人や団体、旅行会社等からの依頼に基づき、オーダーメイド型旅行企画及びガイド派遣をした。

《個人旅行》

年月	主な目的地・人数	概要
2024年4月	しまなみ海道サイクリング(来島海峡大橋) 11名	訪日外国人観光客を扱う旅行会社
	しまなみ海道サイクリング(多々羅大橋・大三島) 3名	訪日外国人観光客を扱う旅行会社
11月	しまなみ海道サイクリング(来島海峡大橋・亀老山) 11名	訪日外国人観光客を扱う旅行会社
3月	しまなみ海道サイクリング(来島海峡大橋) 13名	訪日外国人観光客を扱う旅行会社

《団体旅行》

	主な目的地・人数	概要
2024年 11月	しまなみ海道サイクリング（来島海峡大橋、大島） 24名	子ども達の体験活動 愛媛県内の活動センター

《修学旅行》

2024年5月	多々羅大橋を渡るサイクリング体験へのガイド派遣 ・兵庫県/中学校 260名 ・大阪府/小学生 100名 来島海峡大橋を渡るサイクリング体験へのガイド派遣 ・愛知県/高等学校 40名
6月	多々羅大橋を渡るサイクリング体験へのガイド派遣 ・大阪府/中学校 160名 来島海峡大橋を渡るサイクリング体験へのガイド派遣 ・大阪府/中学生 30名
10月	来島海峡大橋を渡るサイクリング体験へのガイド派遣 ・神奈川県/高等学校 150名、80名 ・愛知県/高等学校 80名、80名、80名 ・埼玉県/高等学校 80名
11月	多々羅大橋を渡るサイクリング体験へのガイド派遣 ・福島県/高等学校 延べ約80名

《ファミトリップ》

	主な目的地・人数	概要
2024年 7月	しまなみ海道サイクリング（来島海峡大橋） 4名	訪日外国人の募集型ツアー 四国ツーリズム創造機構

11. 自転車まちづくり

自転車による地域振興、自転車を活用した健康推進や環境配慮型の取組み等を進める各種機関からの依頼に基づき、講師を派遣したり、現場視察・ガイド派遣による現地ツアー等を行なったりした。

① 講師派遣

2024年 6月11日(木)	四国四県の大学生による「脱炭素ツーリズム」をテーマにし企画立案。サイクリングしながら、地域の価値（人、場所、歴史・文化）に触れる研修へのガイド派遣。
6月21日(土)	アスリートアドバンスコースにとって大切な素養を獲得することを目的としたプログラム。トライアスロン体験の現場での立哨、ガイドの派遣。
6月23日(日) 7月8日(月) 7月9日(火)	しまなみ海道サイクリングの魅力を発信する番組制作へのガイド派遣。地域との出会いをアレンジしたり、自転車ならではの地域資源目線の紹介をしたりしながらの案内。
7月8日(月)	四国四県の観光の魅力を紹介する「四国を元気にプロジェクト」（インターネット媒体）へのガイド派遣。案内人と地域をつなぐコーディネートを担当。
9月19日(木)	ロードサービスを行う JAF の社員向け研修として、自転車まちづくりやレジャーサイクリングの魅力を紹介。しまなみ海道をレンタサイクルで巡る体験も提供。
9月26日(木)	2025 年度地球環境基金助成金説明会での助成事業の事例発表を担当。観光振興と生物多様性保全に向けた人材育成、ガイダンス機能強化などの工

	夫を紹介した。
10月2日(水) 10月23日(水)	地域に関する様々な課題を学び、経済・経営学の視点からの解決策を目指すフィールドワークの受入。サイクリング体験を通して、都市と地方のつながりの大切さを実習する機会を設けた。
10月15日(火)	「令和6年度 身近な自然資本活用に関する意見交換会@今治」において、地域の自然環境等の資源をいかし、魅力的な地域づくりへと発展させるための工夫を意見交換。
11月22日(土)	国際観光ビジネスコースに所属する外国人留学生を対象にしまなみ海道のサイクリングの魅力、自転車往来が多いまちにおいて向上が求められる自転車の規則について講義した。
2025年 2月19日(水)	「若狭湾サイクリングルート」の整備、情報発信に取り組む嶺南地域（県南部6市町）において、地域の事業者や住民など地域全体で来訪者を受入れる連携を学び合った。
2025年 3月4日(火)	自転車の休憩所運営者を対象とした「サイクルオアシス研修会」において、基礎的な知識やおもてなしのポイントを助言。オアシス運営者間の交流や連携について意見交換した。

② 視察受入

2024年 8月17日(土)	サイクルツーリズムとまちづくりに関する研究におけるヒアリング応対。エコツアーを中心に、地域課題解決型ツアーについての情報提供。
2024年 8月19日(月)	急速に増加する「しまなみ海道」への入込観光客が与える周辺地域への効果への研究へのヒアリング応対。広域連携を視点にした観光への可能性を情報提供。
2024年 8月20日(火)	ソフトバンク社が行う地方創生型インターンシップのヒアリング受入。しまなみ海道サイクリストに向けた今治市内誘導施策検討チームへの助言。
2024年 8月27日(水)	三重県の調査研究での来訪を迎え、広域連携によるサイクルツーリズム推進による地域活性化の情報提供。官民一体で進める受入環境整備と役割分担を共有した。
2024年 9月11日(水)	「新たにつながりを生み出す場」としてサイクルツーリズムを題材とした研究へのヒアリング応対。移住などのきっかけとなるツーリズム、ゲストハウスでのつながりづくりを話題提供。
2024年 10月25日(金)	都市郊外化・スプロール化といった中心地の課題解決に向けた新たな人の流れの創出に取り組む本四の現状のヒアリング。自転車による回遊などの工夫を情報提供。
2024年 11月5日(火)	行政、企業、地元の自転車競技会連携による、ニセコエリアのサイクルツーリズムをはじめとした自転車活用推進に関する取り組みへの情報提供。
2025年 1月15日(水)	鹿児島県の県議会議員の視察。サイクルツーリズム推進による地域活性化の情報提供。官民一体で進める受入環境整備と役割分担を共有した。
2025年 1月15日(水)	「スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム」の助成を受けた経験団体として、コミュニティをベースに活動するスポーツ関連団体に必要と思われる支援について共有した。

③審議会・委員会・意見交換会への参加

しまなみの自転車振興や関係機関との連絡調整等に関する会議等に参加した。

2024年7/9(火)	今治ブランド戦略会議/今治市営業戦略課	今治市ブランド iimabari の価値を高めるため、多様な主体による目的と計画、実行への参画。今治ブランド戦略作成、令和6年度の事業計画の方向性を議論した。
2024年7/19(金)	中心市街地創生デザイン会議/今治市魅力都市創生課	今治市中心市街地の再開発にあたり、人が集い、安全・安心な生活を送ることができるような空間づくりを検討する会議に出席。
2024年9/6(金) 2025年2/25(火)	しまなみ地域サイクリストマナー向上推進協議会/愛媛県東予地方局今治支局総務県民室	しまなみ地域を訪れるサイクリストの交通ルールの順守やマナーアップへの意識向上対策に関して、取組の基本事項を検討する協議会への参加。
2025年1/15(水)	今治市サイクルシティ推進協議会/今治市サイクルシティ推進課	官民一体となって自転車の活用推進に努め、誰もが安全に安心して自転車を利用できる環境を整えるとともに、サイクルツーリズムによる地域活性化を図る取組を検討。

12. ツールやウェブサイトの情報更新

宿泊施設「シクロの家」「なみとみなと」の公式ウェブサイトにおいては、交通機関、飲食など、旅行者に必要な情報更新に努めた。路線バスの廃止や船の減便、時刻表の改定などが多く、正確な情報の把握と即時の情報更新対応を行った。初心者旅行者向けのウェブページの更新のほか、原付バイク旅行者向けの案内ページを作成など新たな層の旅行者も意識し、情報を構築した。また、滞在時間の長いインバウンド旅行者については、当エリアでの回遊促進に向け、とびしま海道やゆめしま海道などの広域の情報を英語化した。

X、Instagram、Facebookの公式SNSでの発信も定期的に行った。「シクロの家」においては、「デジタル旅ノート」の仕組みを構築した。「シクロの家」を訪れた旅行者がしまなみ海道の旅行や四国遍路などの旅のストーリーを写真とともに投稿できるものである。海外旅行者の投稿は、旅の風情の捉え方、楽しみ方に独自性があり、海外旅行者の視点からの情報は、新しい配信情報になる可能性を感じている。



13. 会議に関する事項について

(1) 総会

①第14回通常総会

日時：2024年4月27日(土)

議題：○2023年度事業報告・収支決算報告の件
○2024年度事業計画・収支予算の報告の件

(2) 理事会

第1回 日時：2024年4月27日(土)

議題：○2024年度事業計画・活動予算の件
○役員改選の件
○役員報酬の件
○スタッフ給与の件
○総会に付すべき事項の件

第3回 日時：2024年8月5日(月)

議題：○新価値創造コンテンツ造成事業の件
○デジタルツールを活用した安全な自転車旅行地形成事業の件
○2024年度事業の進捗確認の件

第2回 日時：2024年5月18日(土)

議題：○食品衛生管理計画の件
○アルバイト雇用の件
○2024年度事業の進捗の件

第4回 日時：2025年1月10日(金)

議題：○なみとみなとの業務内容の件
○2025年度スタッフ体制の件

第5回 日時：2025年3月11日(火)

議題：○2024年度事業の進捗確認の件
○2025年度事業立案の件